



## 持続可能な自治会活動に向けて、課題解決のヒント

誰もが主体的に参画したいと思える自治会を目指して、毎年このコラムで「女性のみなさんも自治会長を」と呼びかけてきました。その結果、令和6年4月1日現在で、女性比率は14.3%と、昨年より下がったものの、過去10年間では昨年に次いで高い比率となっています（下図参照）。女性会長の人数も同様に徐々に増加傾向に転じていくことが期待できそうです。みなさんのご尽力に、深く感謝申し上げます。

一方、我孫子市に限らず全国の自治会で、加入率低下や担い手不足が課題となっています。人々の生き方や暮らし方が多様化し、自治会活動もまた、それに合わせて変化が求められています。共働き世帯や単身世帯、子育て世帯などの多様なニーズに応える活動や、学生など若い世代を含めて様々な方が担い手となれる体制づくりも始まっています。その第一歩として、「自治会長も男女半々が当たり前」となることが期待されます。

さらに、昨年1月の能登半島地震以降、地域における防災力の大切さについて、改めて考える機会も多かったのではないのでしょうか。多くの自治会に設置されている自主防災組織においても、その方針決定の場に女性が参画できるよう、働きかけをお願いいたします。

《担当：市民協働推進課 男女共同参画室》

我孫子市内の自治会長女性比率と女性自治会長数の推移  
(各年4月1日現在)

